

初級中国語総合教科書における話題選択と 内容設計に関する実証的分析

— 『新实用漢語課本』と『中文聴話読写』を例として—

劉 莉*

外国語教育の初期段階の課題として、語彙や文法の既有知識が少ない状態で、一定のコミュニケーション能力の育成を図っていくことの難しさが指摘される。すなわち、文法知識の教授とコミュニケーション能力の育成とのバランスを取ることが初期段階の外国語教育の課題であり、これが教科書の編纂においても問われることになる。このバランスをいかに取っていくかに関して重要な機能を果たすのが、教科書における「話題」(いわゆるトピック)の選択のあり方である。本研究では、世界で最も多く使用されている『新实用漢語課本』と『中文聴話読写』この2つの初級教科書を取り上げ、『国際漢語教学通用課程大綱(修訂版)』の「漢語教学話題および内容提案表」の分類を基準にして、話題を整理した上で、比較分析を行い、両教科書の話題選択と内容設計における構造的特質を明らかにする。その上で、特に中国語教育の初級段階で、文法知識の教授とコミュニケーション能力の育成とのバランスを取る方法について検討を加える。

キーワード：教科書、話題選択、『新实用漢語課本』、『中文聴話読写』

はじめに

外国語教育の初期段階の課題として、語彙や文法の既有知識が少ない状態で、一定のコミュニケーション能力の育成を図っていくことの難しさが指摘される。すなわち、文法知識の教授とコミュニケーション能力の育成とのバランスを取ることが初期段階の外国語教育の課題であり、これが教科書の編纂においても問われることになる。このバランスをいかに取っていくかに関して重要な機能を果たすのが、教科書における「話題」(いわゆるトピック)の選択のあり方である。陳(1991)は、外国語教科書の話題の機能として、それが総合的なシステムであり、コミュニケーション能力、文化、語彙、文法項目など様々な部分を含んでいる¹と述べている。李(2006)²と程(2001)³は、話題の選択が語彙の範囲だけでなく、文法や、コミュニケーション能力、文化知識の内容も実質的に決めていることを明らかにした。すなわち、話題が文法知識の教授とコミュニケーション能力の育成を結びつける役割を果たしており、教科書の内容や品質を大きく規定しているのである。しかしながら、これまでの研究では、中上級レベルの教科書の話題や会話練習の話題における選択基準に関する議

*教育学研究科 博士課程後期

論がほとんどであり、初級レベル総合教科書編纂における話題選択が検討されたことはない。

そこで本稿では、『国際漢語教学通用課程大綱(修訂版)』(中国語教育の学習指導要領にあたるもの)における「漢語教学話題および内容提案表」の分類を基準にして、世界で最も多く使用されている『新実用漢語課本』と『中文聴話読写』の2つの初級教科書を取り上げ、それぞれの話題を整理した上で比較分析を行い、両教科書の話題選択と内容設計における構造的特質を明らかにする。そのうえで、中国語教育の初級段階において、文法知識とコミュニケーション能力の育成とのバランスを取る方法について検討を加えることにする。本稿の構成は以下のとおりである。まず、教科書の話題選択基準と展開方法に関する先行研究の分析視点とその課題を検討する。次に、研究対象としての2つのシリーズ教科書における編纂者の話題選択理由を整理し、話題選択についての比較研究の方法を示す。そのうえで、話題選択と内容設計に関する比較分析を行い、両教科書の構造的特質を明らかにする。最後に、分析の結果を踏まえて、文法知識の教授とコミュニケーション能力の育成とのバランスを取る方法について考察する。

1 先行研究

王(2016)は、海外の中国語教育が抱える課題として、海外の中国語学習者は中国語の言語環境が少なく、授業以外の練習機会も少ないため、学習者の授業・教師・教科書に対する依存性が高いこと、そして、そのことが海外中国語教育の教育内容の選択と設計の前提となっていると指摘している⁴。いわば、限られた言語環境の中で、いかに言語能力を育成できるかが、海外の中国語教育に求められているのである。その際、指導上の鍵となるのが教科書における話題のあり方である。話題に関する研究には、学生の好む話題の研究や話題の分類の研究、教科書の話題選択に関する研究などがある。研究対象として、話題が様々に取り上げられる理由は、話題の部分に学習者が学ぶべき文法知識と身につけるべきコミュニケーション能力に対する編纂者の考え方が表われるからである⁵。したがって、話題の選択に関する研究は中国語教育あるいは中国語教科書の編纂に関する研究において重要な位置を占めている。

話題選択に関する研究は二つの側面にわけられる。第一に、学習者の話題に対する好みについての調査研究である。王(2016)は韓国における中級レベルの中国語成人学習者の話題に対する好みについて調査を行った。その結果、韓国の学習者は中国の異文化コミュニケーションに関する知識に一番関心があることを明らかにした⁶。蔡(2008)はアメリカの義務教育段階にある学生に対する中国語授業の内容に対する好みを調査し、高校生が重視している話題内容が①個人と家庭生活、②日常生活、要求、感情、③趣味であることを明らかにした⁷。汲(2005)は北京大学の留学生のスピーチコンテスト参加者が選択した話題を集計し、学生の好む話題を次のように分類している⁸。①中国の社会と文化(48.94%)、②個人情報、理想、経験など(14.04%)、③社会問題、たとえば生活態度、自由、男女平等、就職活動など(13.19%)、④言語関連の話題(9.79%)、⑤母国についての話題(8.09%)、⑥異文化コミュニケーションについての話題(5.96%)。その上で、汲(2005)は留学生の会話能力のレベルと好みの話題との間に関係があることを明らかにした。すなわち、初級レベルの

学生ほど広く中国の社会と文化に関する話題を好む傾向にあるのに対して、上級レベルの学生は社会問題の話題をより好む傾向にあるという。その他、余(2012)⁹、劉(2010)¹⁰、鄭(2014)¹¹と李(2012)¹²も学習者の好みについて調査を行っている。この中で注目されるのは汲(2005)の研究である。汲(2005)の作った学習者の好む話題の分類は、他の研究者が教科書の話題選択における研究を行う際に、分類基準として数多く使用されている。

第二に、教科書の話題選択についての研究である。この研究では、教科書に現れた話題を集計し、分析する方法が採られてきた。羅(2013)は『ハンガリー漢語課本』(ハンガリーで初めて作られた小中学生対象の中国語教科書)と『ハッピー中国語』(ハンガリーで最も人気がある中国語教科書)に現れた話題を比較分析し、『ハンガリー漢語課本』の方がハンガリーの文化および中国文化との比較を重視しているという特徴を明らかにした¹³。楊(2008)は広く使用されている初級レベルの会話教科書である『漢語900句』と『漢語会話301句』の話題選択について分析を行い、初級レベルの会話教科書の話題選択に見られる特徴はサービス関連の個人要求(たとえば、買い物、道を聞く、旅行など)、あるいは個人情報に関する会話が多いことであると述べている¹⁴。曹(2014)は上級レベルの総合教科書である『博雅漢語』と『発展漢語』を比較し、上級レベルの教科書の話題内容の分布状況を明らかにした¹⁵。

こうした先行研究の状況からは、「学習者を中心に」という思想の影響を受けて、学習者の好む話題についての分析が数多くなされていることがわかる。しかし、教科書の話題に関する研究は会話教科書や中上級レベルの総合教科書が中心であり、初級レベルの総合教科書の話題については十分な研究がなされていない。そこで、本研究では初級レベルの総合教科書の話題選択と内容設計を詳細に分析し、その構造的性質を明らかにすることにする。

以下、本研究では、『国際漢語教学通用課程大綱(修訂版)』内の「漢語教学話題および内容提案表」の分類を基準にして、世界でもっとも多く使用されている『新实用漢語課本』と『中文聽話読写』の2つの初級教科書を取り上げて分析を行っていく。

2 『新实用漢語課本』と『中文聽話読写』の編纂原則

『新实用漢語課本』は母語が英語の学習者のために編纂された教科書である。このシリーズの教科書は文法事項とコミュニケーション文化の知識を教えることに加え、「聴く、話す、読む、書く」の四つの言語能力を訓練し、学習者の総合的なコミュニケーション能力を育成することを目的としている¹⁶。この目的を達成するために、編纂者は「構造—機能—文化」という編纂理念を提言している。「構造—機能—文化」のうち、「構造」は通常の意味の文法事項、「機能」は文法事項の表す意味・用法、「文化」はコミュニケーション文化¹⁷を指している。ここから、『新实用漢語課本』の編纂にあたって、編纂者は文法事項の正しい理解と修得を重視しながら、中国語コミュニケーションの際に欠かせないコミュニケーション文化も重視している。

一方、『中文聽話読写』は『新实用漢語課本』と異なり、想定している使用者はアメリカの学生であり、華僑学生のような現地在住の中国人を含めていない。『中文聽話読写』の目標は常用漢字と語彙、

文法事項を把握した上で、学習者の日常会話能力を高めることにある。この目標を達成するために、編纂者は学生の日常によくある会話場面を選び、常用漢字と語彙を使用して、暗記しやすいテキストを作っている¹⁸。このシリーズの教科書は「日常・常用」を理念としている。

以上のように、これら二つのシリーズの教科書は、想定する使用者、および編纂理念の設定において大きな相違点がある。筆者はこの二つのシリーズの各四冊の教科書に現れた話題を整理・分析し、さらに、両方に共通する三つの話題についてテキストマイニング分析を行うことで、編纂理念の相違点が話題選択と内容設計にどのように表れるのかを明らかにする。

3 教科書テキストの話題に関する分析

3.1 教科書テキストの話題の分類と各レッスンの話題展開に関する分析

ここでは『国際漢語教学通用課程大綱(修訂版)』において提示された話題分類表の分類法を使用し、『新实用漢語課本』と『中文聴話読写』それぞれの初級にあたるテキストに現れた話題を整理・分析する。

『国際漢語教学通用課程大綱(修訂版)』における話題の分類は以下のとおり、計18分類である。

個人情報, 感情と態度, 日常生活, 健康, 文化と娯楽, 家庭生活, 祝日活動, 旅行と交通, 学校生活, 教育, 言語と文化, 文化と芸術, 科学と技術, 社会交際, 価値観, グローバル化と環境, 社会, 自然

この分類法を使用して、『新实用漢語課本』第1冊から第4冊まで教科書4冊、合計50レッスンおよび『中文聴話読写』level 1 part1・part2とlevel 2 part1・part2教科書4冊、合計40レッスンの話題を表1のように分類した。その際、レッスンのタイトルとテキストの内容を踏まえ、『国際漢語教

表1 『新实用漢語課本』と『中文聴話読写』の話題分類表

『国際漢語教学通用課程大綱(修訂版)』における話題分類	新实用漢語課本(のレッスン番号)	中文聴話読写(のレッスン番号)
個人情報	3, 9	
感情と態度		
日常生活	10, 12, 13, 17, 24, 44	9, 12, 13, 15, 17, 23, 24, 27
健康	49	18, 34
文化と娯楽	21, 30	4
家庭生活	8, 47	2, 28, 37
祝日活動	20, 42	14, 31
旅行と交通	5, 11, 15, 18, 23	3, 10, 19, 20, 33
学校生活	16	8, 21, 22, 25
教育	46	29
言語と文化	27	7
文化と芸術	19, 22, 43	
科学と技術	50	
社会交際	1, 2, 4, 6, 7, 14, 25, 28, 29, 41, 45	1, 5, 6, 16, 26, 39
価値観	32, 35, 37, 38, 39, 40	35
グローバル化と環境	33	36
社会	48	32, 38
自然	31, 34, 36	11, 30
分類できない	26	40

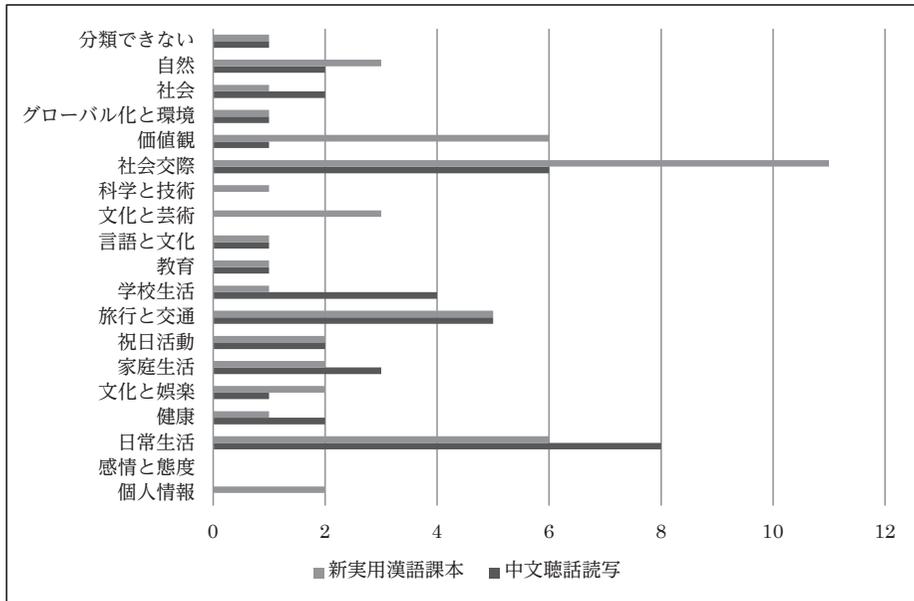


図1 『新実用漢語課本』と『中文聴話読写』の話題分類表

学通用課程大綱(修訂版)』の分類との対応づけを判断し、表1を作成した。表1ではレッスンのタイトルを省略し、各教科書のレッスン番号のみ示した。図1は表1によって作られた度数分布表である。

以上の分析より、『新実用漢語課本』と『中文聴話読写』の両方とも「日常生活」、「旅行と交通」、「社会交際」の三つの話題を重視していることが分かる。より具体的な分析のため、両教科書における話題の割合をしてみる。図2と図3はそれぞれの話題の割合を円グラフで示したものである。これによると、『新実用漢語課本』では、「日常生活」12%、「旅行と交通」10%、「社会交際」22%であるのに対し、『中文聴話読写』では「日常生活」20%、「旅行と交通」13%、「社会交際」15%になっている。また、『新実用漢語課本』が「社会交際」を最も重視しているが、『中文聴話読写』は「日常生活」を最も重視している。「旅行と交通」の話題は両方とも5レッスンずつだが、割合としては、『中文聴話読写』の方が少し多めになっている。さらに、『新実用漢語課本』は『中文聴話読写』より「価値観」という話題を重視していることも特徴的である。そして、『新実用漢語課本』は「科学と技術」と「文化と芸術」の話題を含めているが、『中文聴話読写』ではこの二つは含まれてない。

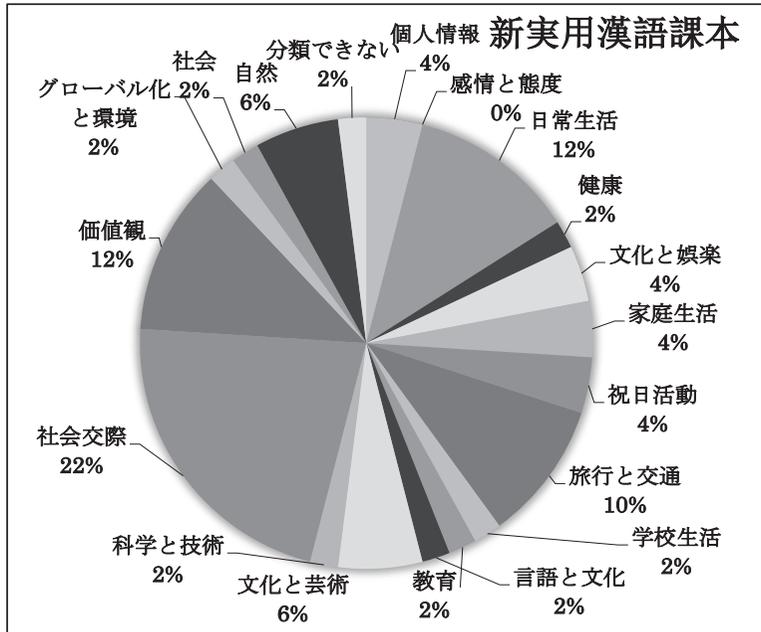


図2 『新实用汉语课本』話題の割合図

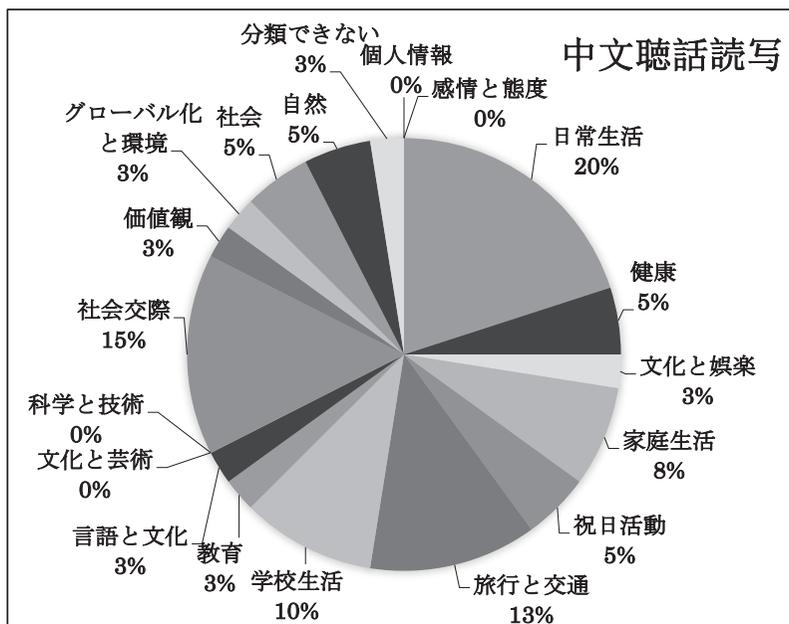


図3 『中文聴話読写』話題の割合図

話題の分類だけでなく、話題の展開の面でも、両教科書には大きな違いがある。まず、レッスンのタイトルと話題との関連性の違いである。『新实用漢語課本』の各レッスンのタイトルは、話題との関連性が低くなっており、むしろ、レッスンの重点文法事項を表すものとなっている。たとえば、第2レッスンのタイトルは「你忙吗？(Are you busy?)」であるが、レッスンの話題は「挨拶」となっており、タイトルと話題との関連性が低い。しかし、このレッスンの重点文法事項は「吗の諾否疑問文の使い方」であり、文法事項である「吗の諾否疑問文の使い方」を使用したタイトルとなっている。一方、『中文聴話読写』はレッスンのタイトルがレッスンの重点事項を示している。たとえば、第9レッスンのタイトルは「Shopping」であるが、レッスンの重点的な話題もまた買い物になっている。文法事項の修得を重視する『新实用漢語課本』、会話重視の『中文聴話読写』という特徴が、こうした部分にも表われていると言える。

第二に、『新实用漢語課本』と『中文聴話読写』の両方とも「感情と態度」という話題のレッスンがないが、これは「感情と態度」の表現や文法事項が他のレッスン中に含まれるかたちで編纂されているからであり、まったく扱われていないということではない。さらに、「分類できない」とされた話題は、どちらの教科書でも「外国人が中国にいる」という話題であることが興味深い。この話題では、中国にきた外国人が遭遇する生活上の場面や多文化交流などが扱われている。

3. 2 テキストマイニングによる分析

以上の教科書テキストの話題分類結果を踏まえて、さらに、両教科書の特徴を描き出していきたい。ここでは「日常生活」という大きな分類に含まれる「買い物」、「病院で診察を受ける」、「部屋を借りる」という三つの会話場面を取り上げてテキストマイニングを行う。この「日常生活」の三つの会話場面を選ぶ理由は以下の二点である。第一に、「日常生活」の話題は、学習者が最も重視し、かつ興味を持つものだからである¹⁹。実際、この話題は教科書で最も多く扱われる話題の一つである。朱(2002)によれば、1989 - 2001年の間に出版された11冊の中国語教科書のうち、10冊で「日常生活」という話題が取り上げられていた²⁰。『新实用漢語課本』と『中文聴話読写』の二つのシリーズでも、「日常生活」が大きな割合を占めている。たとえば、『新实用漢語課本』では話題割合の第二位(12%)であり、『中文聴話読写』では話題割合の第一位(20%)となっている。

第二に、「日常生活」話題の会話場面として、『新实用漢語課本』と『中文聴話読写』の両方に共通しているのは、「買い物」、「病院で診察を受ける」、「部屋を借りる」の三つだからである。『新实用漢語課本』では「日常生活」の話題に用いる会話場面は6レッスンあり、第10レッスン(買い物)、第12レッスン(病院で診察を受ける)、第13レッスン(部屋を借りる)、第17レッスン(買い物)、第24レッスン(買い物)となっている。『中文聴話読写』では8レッスンあり、第9レッスン(買い物)、第12レッスン(食べ物の注文)、第13レッスン(道を聞く)、第15レッスン(病院で診察を受ける)、第17レッスン(部屋を借りる)、第23レッスン(食べ物の注文と食べ物の特徴を説明)、第24レッスン(買い物とブランド品に対する意見)、第27レッスン(インターネット)となっている。両教科書に共通するのは「買い物」(『新实用漢語課本』の第10・17・24レッスン、『中文聴話読写』の第9・24レッスン)、

「病院で診察を受ける」(『新実用漢語課本』の第12レッスン, 『中文聴話読写』の第15レッスン), 「部屋を借りる」(『新実用漢語課本』の第13レッスン, 『中文聴話読写』の第17レッスンである)の三つである。

3. 2. 1 分析方法

ここでは『新実用漢語課本』と『中文聴話読写』に共通している「買い物」, 「病院で診察を受ける」, 「部屋を借りる」の三つレッスンの話題を取り上げ, KH coder を使用してこの三つの会話場面の文章にテキストマイニングを行い, 名詞, 動詞, 形容詞三種類の品詞について頻出語を抽出する。そのうえで, 頻出語の共起ネットワーク図を示す。文章の前処理に際して, 語彙の抽出のために使用した基準はKH coder 中に含まれる Stanford Log-linear Part-Of-Speech Tagger²¹である。さらに, 誤差を下げるために, 強制抽出の語彙を人名, 地名, 慣用語に指定したうえで, 前処理を実行した。文章の量が少ないため, 共起ネットワーク図を作成する際に, 集計単位を「センテンス」に設定して, 語彙の頻度が二回以上現れたものに設定した。

3. 2. 2 文章に対するテキストマイニング

会話場面のテキストに対するテキストマイニング分析は二つの部分に分けられる。まず, Stanford Log-linear Part-Of-Speech Tagger を語彙抽出の基準として, KH coder を使用し, 人名, 地名, 慣用語に強制抽出するように指定してから, 前処理を行う。分析の結果は, 表2に示してある。「買い物」の会話場面の場合, 『新実用漢語課本』では語彙1294個, センテンス91句, 共起ネットワーク図において二回以上現れた語彙は26個となり, 『中文聴話読写』では語彙687個, センテンス46句, 共起ネットワーク図において二回以上を現れた語彙は55個となった。「病院で診察を受ける」の会話場面の場合, 『新実用漢語課本』では語彙238個, センテンス22句, 共起ネットワーク図における二回以上現れた語彙は20個となり, 『中文聴話読写』では語彙375個, センテンス35句, 共起ネットワーク図における二回以上現れた語彙は30個となった。そして, 「部屋を借りる」の会話場面の場合, 『新実用漢語課本』では語彙333個, センテンス25句, 共起ネットワーク図における二回以上現れた語彙

表2 会話場面別の語彙数と句数統計表

		新実用漢語課本	中文聴話読写
買い物	語彙数	1294	687
	句数	91	46
	二回以上現れた語彙	26	55
病院で診察を受ける	語彙数	238	375
	句数	22	35
	二回以上現れた語彙	20	30
部屋を借りる	語彙数	333	300
	句数	25	17
	二回以上現れた語彙	32	34

は32個となり、『中文聴話読写』では語彙300個、センテンス17句、共起ネットワーク図における二回以上現れた語彙は34個となった。

「買い物」、「病院で診察を受ける」、「部屋を借りる」の三つの会話場面における名詞、動詞、形容詞の頻出語(二回以上を現れた語彙)を抽出した結果が以下の表3、表4、表5である。「買い物」の会話場面の場合、『新实用漢語課本』では名詞が26個、形容詞12個、動詞31個であり、『中文聴話読写』では名詞が16個、形容詞が8個、動詞が15個である。「病院で診察を受ける」の会話場面の場合、『新实用漢語課本』では名詞が2個、形容詞1個、動詞9個であり、『中文聴話読写』では名詞が5個、形容詞が1個、動詞が12個である。「部屋を借りる」の会話場面の場合、『新实用漢語課本』では名詞が8個、形容詞1個、動詞14個であり、『中文聴話読写』では名詞が12個、形容詞が3個、動詞が11個である。

表3 「買い物」の頻出語

書名	新实用漢語課本		中文聴話読写		新实用漢語課本		中文聴話読写		新实用漢語課本		中文聴話読写	
	Noun		Noun		Adj		Adj		Verb		Verb	
品詞	語彙	頻度	語彙	頻度	語彙	頻度	語彙	頻度	語彙	頻度	語彙	頻度
	钱	18	名牌	11	好	9	好	10	买	22	买	20
	苹果	10	衣服	11	贵	8	便宜	4	要	11	穿	8
	香蕉	7	钱	6	便宜	7	不错	3	说	7	想	5
	衣服	6	牌子	5	漂亮	4	合适	3	来	6	去	3
	东西	5	颜色	5	合适	3	大	2	穿	6	喜欢	3
	商场	5	鞋	4	红	3	怎么样	2	送	6	对不起	3
	睡衣	4	样子	3	绿	3	时髦	2	去	5	看	3
	老板	4	衬衫	3	一样	2	红	2	喜欢	5	要	3
	那件	4	裤子	3	不错	2			卖	4	说	3
	商店	3	东西	2	多	2			可以	4	付	2
	朋友	3	信用卡	2	大	2			想	4	刷卡	2
	音乐	3	先生	2	怎么样	2			会	3	可以	2
	价	2	大小	2					想买	3	看看	2
	价钱	2	日用品	2					找	3	能	2
	光盘	2	时候	2					看	3	谢谢	2
	小商	2	长短	2					知道	3		
	小姐	2							给	3		
	店	2							能	3		
	报纸	2							买一送一	2		
	时间	2							做	2		
	本子	2							再见	2		
	梳子	2							叫	2		
	汉语	2							学	2		
	货	2							学习	2		
	这件	2							得	2		
	颜色	2							换	2		
									相信	2		
									看看	2		
									觉得	2		
									试	2		
									试试	2		
語彙合計	26		16		12		8		31		15	

表4 「病院で診察を受ける」の頻出語

書名	新实用 漢語課本		中文 聴話読写		新实用 漢語課		中文 聴話読		新实用 漢語課本		中文 聴話読写	
品詞	Noun		Noun		Adj		Adj		Verb		Verb	
	語彙	頻度	語彙	頻度	語彙	頻度	語彙	頻度	語彙	頻度	語彙	頻度
	医院	3	医生	6	好	2	好	2	去	11	吃	10
	嗓子	3	药	5					看病	6	去	6
			蛋糕	3					要	6	看	4
			眼睛	2					吃	5	不行	3
			肚子	2					愿意	3	要	3
									叫	2	买	2
									头疼	2	可以	2
									想	2	想	2
									起床	2	打针	2
											放在	2
											看病	2
											花	2
語彙 合計	2		5		1		1		9		12	

表5 「部屋を借りる」の頻出語

書名	新实用 漢語課本		中文 聴話読写		新实用 漢語課		中文 聴話読写		新实用 漢語課本		中文 聴話読写	
品詞	Noun		Noun		Adj		Adj		Verb		Verb	
	語彙	頻度	語彙	頻度	語彙	頻度	語彙	頻度	語彙	頻度	語彙	頻度
	房子	6	公寓	5	好	3	好	3	想	8	付	3
	房租	3	学校	3			安静	3	看	4	养	3
	经理	3	宠物	3			方便	2	租	4	要	3
	事儿	2	家具	3					找	3	住	2
	公司	2	月	3					来	3	去	2
	朋友	2	出租	2					会	2	带	2
	电话	2	卧室	2					再见	2	找	2
	租房子	2	学期	2					去	2	搬出	2
			客厅	2					帮助	2	能	2
			宿舍	2					应该	2	觉得	2
			房租	2					给	2	说	2
			押金	2					能	2		
									说	2		
									请	2		
語彙 合計	8		12		1		3		14		11	

頻出語の抽出結果を踏まえ、『新实用漢語課本』と『中文聴話読写』の「買い物」、「病院で診察を受ける」、「部屋を借りる」の三つの会話場面の頻出語の共起ネットワーク図を示したものが図4から図9である。テキスト文章の量が少ないため、共起ネットワーク図を作成する際に、集計単位を「センテンス」に設定し、語彙の頻度が二回以上現れたものに設定した。図における円の大きさは語彙の頻度を表しており、円と円に連結している線が語彙間の関連度を表している。太い線で連結している語彙どうしは、関連度が高い、すなわち、両方同時に現れる場面が多いことを意味し、細い線で連結している語彙どうしは関連度が低いことを意味している。

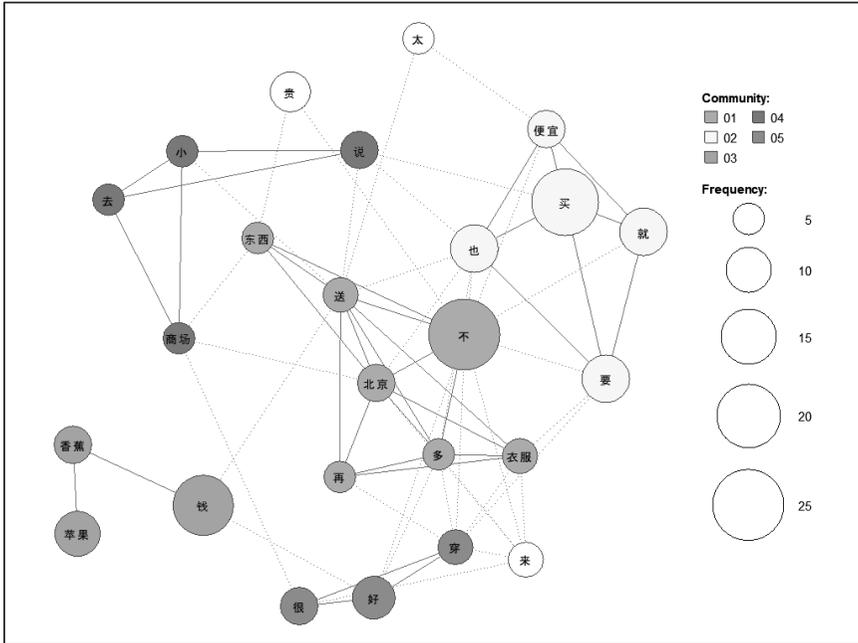


図4 『新実用漢語課本』の「買い物」の共起ネットワーク図

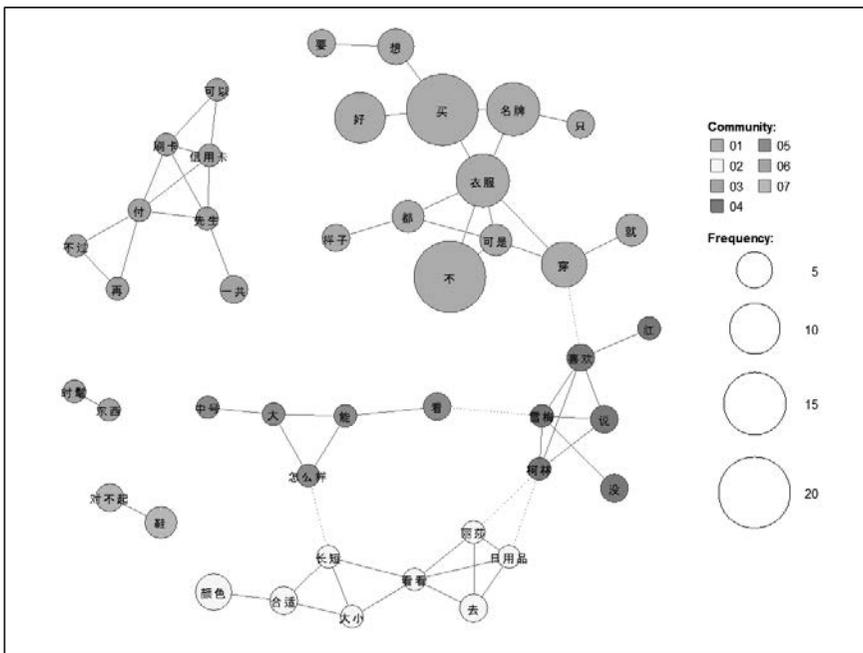


図5 『中文聴話読写』の「買い物」の共起ネットワーク図

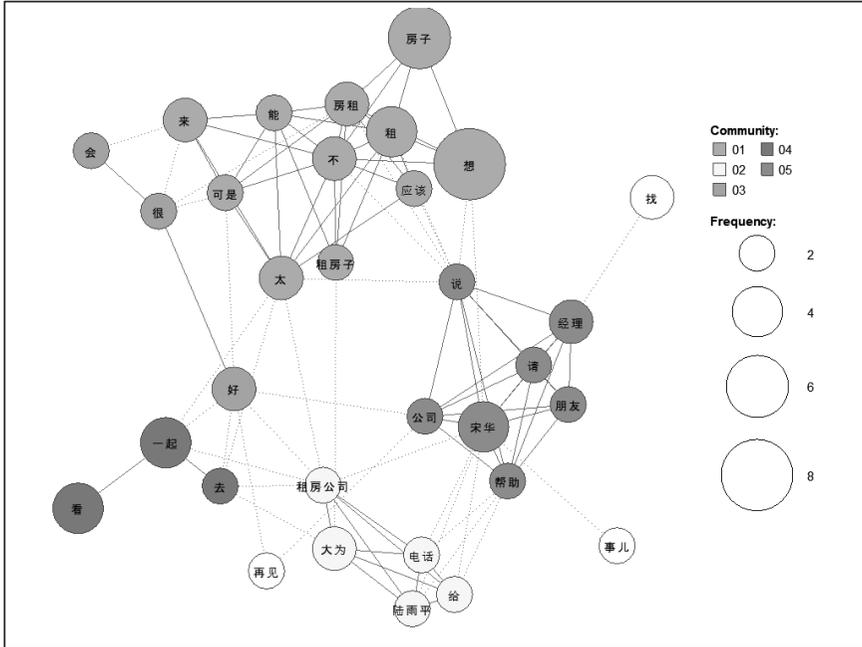


図8 『新实用汉语课本』の「部屋を借りる」の共起ネットワーク図

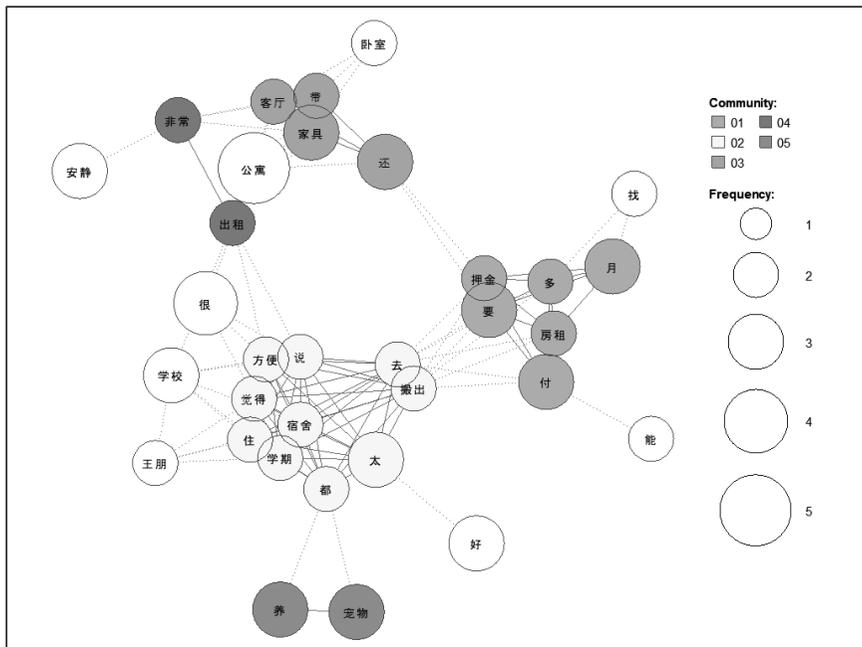


図9 『中文听话读写』の「部屋を借りる」の共起ネットワーク図

3. 3. 3 テキストマイニングの分析結果

以上の分析から二つの結果を得ることができる。

第一に、語彙の繰り返し出現率の違いである。表2によれば、『新实用漢語課本』の方がセンテンスの総句数と語彙総量は多いが、名詞、形容詞、動詞のいずれについても二回以上現れた語彙数は少ない。一方で、『中文聴話読写』の方がセンテンスの総句数と語彙総量は少ないが、名詞、形容詞、動詞において二回以上現れた語彙数が多い。これにより、『新实用漢語課本』では語彙の繰り返し出現率が低く、『中文聴話読写』では語彙の繰り返し出現率が高いことが分かる。また、「買い物」場面で見ると、『新实用漢語課本』は『中文聴話読写』よりも2倍近い語彙が表れているにもかかわらず、二回以上現れた語彙数は『中文聴話読写』よりも少ないことが注目される。ここから、『新实用漢語課本』は語彙の繰り返しを避け、数多くの語彙を学ばせようとする意図が見て取れるのに対し、『中文聴話読写』は語彙の繰り返しを多用することで学習内容の定着を重視していることが分かる。

第二に、前出の共起ネットワーク図の分析からも、『新实用漢語課本』よりも『中文聴話読写』の方が、テキスト内容では語彙相互の関連度がより強いと判断することができる。例えば、「部屋を借りる」という会話場面の場合、『新实用漢語課本』の共起ネットワーク図に現れた語彙は「房子(部屋)、房租(家賃)、租(レンタル)、想(したい)、应该(のはずだ)、不, 能(できる)、来(くる)、可是(しかし)、太(ひどく)、租房子(部屋を借り)、会(できる)、很(とても)、好(いい)、说(話す)、经理(店長)、请(お願い)、朋友(友)、宋华(人名)、公司(会社)、帮助(助かり)、租房公司(不動産)、大为(人名)、电话(携帯)、陆雨平(人名)、给(あげる)、一起(一緒に)、去(行く)、看(見る)、事儿(こと)、再见(さよなら)」である。一方、『中文聴話読写』の共起ネットワーク図に現れた語彙は、「带(付く)、家具(家具)、客厅(リビングルーム)、还(なお)、非常(非常に)、出租(レンタル)、卧室(ベッドルーム)、安静(静か)、公寓(アパート)、很(とても)、找(探す)、学校(学校)、王朋(人名)、好(いい)、能(できる)、养(飼う)、宠物(ペット)、方便(便利)、觉得(と感じる)、住(住む)、说(話す)、宿舍(寮)、学期(学期)、都(全部)、太(ひどく)、去(行く)、搬出(引越)、月月(多(多い))、房租(家賃)、押金(敷金)、要, 付(支払う)」である。下線を引いたのは「部屋を借りる」という会話場面に直接関連している語彙であるその結果、『新实用漢語課本』では5個のみだが、『中文聴話読写』では13個となっている。ここからも、『新实用漢語課本』では語彙相互の関連性よりも多数の語彙に触れることが重視されている一方、『中文聴話読写』では、語彙数が少ないにもかかわらず相互の関連性が図られており、学習内容の定着が重視されていることが分かる。

4 まとめ

以上の分析を整理しておこう。まず、『新实用漢語課本』と『中文聴話読写』は話題選択と内容設計についてそれぞれに特徴があることを明らかにした。『新实用漢語課本』は英語圏で中国語を学ぶ数多くの人々に利用されることを想定して、豊富な語彙を含む話題選択となっているが、『中文聴話読写』はアメリカの学生のために、学生の日常生活を中心とした、話題選択となっている。

次に、『新实用漢語課本』と『中文聴話読写』の両方とも「日常生活」、「旅行と交通」、「社会交際」

の三つの話題を重視していること、しかし、「日常生活」の話題で比較してみると、『新实用漢語課本』よりも『中文聴話読写』のほうが会話場面の種類が豊富であることが分かった。

最後に、テキストマイニングの分析結果によって、『新实用漢語課本』よりも『中文聴話読写』のほうが語彙の繰り返し出現率が高いことが分かった。このことと共起ネットワーク図の分析結果を重ねることで、『新实用漢語課本』は語彙相互の関連性よりも多数の語彙に触れることを重視していること、一方、『中文聴話読写』は、語彙数が少ないにもかかわらず相互の関連性が図られ、学習内容の定着を重視したものとなっていることを明らかにした。

5 考察

以上の分析を踏まえ、ここでは中国語教育の初級段階で、文法知識とコミュニケーション能力の育成とのバランスを取る方法について検討を加える。具体的には、想定される使用者の特徴と教科書の編纂理念という二つの観点から、『新实用漢語課本』と『中文聴話読写』の特質を検討する。

まず、想定される使用者について見ると、『新实用漢語課本』の方は英語を母国語とする人を想定しているが、使用者の年齢や現地の状況といったその他の条件は想定されていない。一方、『中文聴話読写』の場合は、明確にアメリカの学生であり、中国語を日常的に使用する環境がないことが想定されている。『新实用漢語課本』の編纂者は、不特定多数の中国語学習者によるコミュニケーションへの要求を満足させるために、教科書編纂の重心を文法事項の教授と文法事項を把握した上でのコミュニケーション能力の育成に置いている。これに対して、『中文聴話読写』は使用者の特徴と使用状況を明確に想定した上で、教科書編纂の重心をコミュニケーション能力の育成の方に置いている。両者の長所を踏まえつつ、より良い編纂方法を導くとすれば、可能な限り想定される使用者の年齢や特徴、使用される状況を明確にしたうえで、語彙を精選し、語彙相互の関連性を高めることが今後のより良い海外中国語教育の展開につながるだろう。そのためにも、海外の中国語学習者の特徴や要求に対するより綿密な調査が必要になると考えられる。

また、編纂理念から見ると、『新实用漢語課本』は文法事項の修得とコミュニケーション能力の育成を目的としている。この目的を達成するために、編纂者は「構造—機能—文化」という編纂理念を提言している。「構造」は通常の意味の文法事項、「機能」は文法事項の表す意味・用法、「文化」はコミュニケーション文化を指している。すなわち、文法事項の正確な修得を踏まえたコミュニケーション能力育成を目指している。そのため、『新实用漢語課本』のテキスト文章は文法事項を豊富に扱っているが、その反面、短い文章が羅列しがちであり、会話の自然な流れを形成できていない。一方、『中文聴話読写』は『新实用漢語課本』と異なり、「日常・常用」を理念として編纂されている。『中文聴話読写』のテキスト文章は実際の日常会話に近い内容になっている。その反面、文法事項の難易度に関する順次性はあまり厳密ではない。このように、両教科書はそれぞれにメリット・デメリットを持っているが、それは両者の編纂理念の表れでもある。したがって、文法事項とコミュニケーションのバランスのあり方には、一つの正解がある訳ではなく、その善し悪しは編纂理念との比較から導かれるべきものである。その比較の際に、本稿で用いたテキストマイニング分析の手法を用いる

ことで、編纂理念がどの程度教科書の話題選択と内容設計に反映されているかを客観的に捉えることが可能となる。これにより、編纂理念を正しく反映したバランスの良い教科書が作成されるはずである。世界中の多様な学習者のニーズに応えるために、こうした作業が今後必要になってくるだろう。

おわりに

本稿では、『国際漢語教学通用課程大綱(修訂版)』中の話題分類を基準にして、『新实用漢語課本』と『中文聽話読写』の2つの初級総合教科書を比較検討し、テキストマイニング分析を用いることで、初級レベル総合教科書の話題選択と内容設計に表れた両教科書の構造的性質を実証的に明らかにした。具体的には、①両教科書ともに、「日常生活」、「旅行と交通」、「社会交際」の三つの話題を重視しているが、「日常生活」話題で見ると、『新实用漢語課本』よりも『中文聽話読写』のほうが会話場面の種類が豊富であること、②科書の頻出場面である「日常生活」の内容設計から、『新实用漢語課本』は語彙相互の関連性よりももの語彙に触れることを重視し、『中文聽話読写』は、語彙相互の関連性を高めることで、学習内容の定着を重視したものとなっていることを明らかにした。そのうえで、想定される使用者と編纂理念の二つの視点から、初級段階の中国語教育における文法知識の教授とコミュニケーション能力の育成とのバランスを取る方法を考察した。

なお、本稿の課題として、実際には両教科書を使用している教師や学生からの意見を踏まえることができなかった点がある。「学習者を中心に」という観点に立つならば、教師と学生双方から見た「使い勝手」の良さという観点も今後加味している必要があるだろう。また、中・上級レベルの教科書において文法事項の教授とコミュニケーション能力の育成とのバランスがどのように取られているのかという点も、本稿で用いた実証的分析を応用して明らかにしていく必要がある。今後の課題としたい。

【注】

- 1 陈灼「试论中级汉语课的设计」,『世界汉语教学』, vol.4, 1991, pp.244-249。
- 2 李泉『对外汉语教材研究』,北京:商务印书馆, 2006。
- 3 程相文「对外汉语教材的创新」,『语言文字应用』, vol.4, 2001, pp.36-42。
- 4 王芸华「在韩国成人中级汉语口语课内容的选取及教材的利用」,『海外华文教育』, no.79, 2016.2, pp.189-196。
- 5 苏新春;唐师瑶;周娟;王玉刚「话题分析模块及七套海外汉语教材的话题分析」,『江西科技师范学院学报』, vol.6, 2011, pp.58-65。
- 6 王芸华「在韩国成人中级汉语口语课内容的选取及教材的利用」,『海外华文教育』, no.79, 2016.2, pp.189-196。
- 7 蔡雅薰「美国各級學校 K-12 華語教材情境選用研究」,『中原華語文學報』, vol.10, 2008, pp.205-224。
- 8 汲传波「对外汉语口语教材的话题选择」,『云南师范大学学报(对外汉语教学与研究版)』, vol.3, 2005, pp.8-12。
- 9 余千华;樊葳葳;陈琴「汉语学习者话题兴趣及其与对外汉语教材话题匹配情况调查研究」,『语言教学与研究』, vol.1, 2012, pp.23-29。
- 10 刘艺「学习者为本的汉语教材话题排序调查分析—以零起点对外汉语教材的话题排序为例」,『第十届国际汉语教学

- 研讨会论文选], 2010, pp.284-290。
- 11 郑家平「汉语学习者对话题兴趣度和重要性认知的调查研究」,『云南师范大学学报(对外汉语教学与研究版)』, vol.11, 2014, pp.33-44。
 - 12 李则昕;刘一菌「对泰初级汉语教材话题设置调查及启示」,『齐齐哈尔师范高等专科学校学报』, no.130, 2012.6, pp.90-92。
 - 13 罗洋天「《匈牙利汉语课本》课文话题设计」,『云南师范大学学报(对外汉语教学与研究版)』, vol.11, 2013, pp.58-68。
 - 14 杨艳;柯丽芸「对外汉语初级口语教材话题研究—以《汉语900句》和《汉语会话301句》为例」,『齐齐哈尔师范高等专科学校学报』, no.104, 2008.4, pp.121-123。
 - 15 曹祎怡「对外汉语高级教材中话题选择的研究—以《博雅汉语》《发展汉语》为例」,『第七届北京地区对外汉语教学研究生论文集』, 2014。
 - 16 刘珣『新实用汉语课本(第二版)1』修订说明
 - 17 コミュニケーション文化は異文化コミュニケーションする時, コミュニケーションに影響を与える文化知識である。
 - 18 刘月华「中文教材的课文和语法」,『中文教材与教学研究:刘月华教授荣退纪念论文集』, 北京语言大学出版社, 2006, pp.24-31。
 - 19 郑家平「汉语学习者对话题兴趣度和重要性认知的调查研究」,『云南师范大学学报(对外汉语教学与研究版)』, vol.11, 2014, pp.33-44。
 - 20 朱志平「对新世纪汉语(第二语言)教材的思考—从加拿大中学汉语教材编写所想到的」,『北京师范大学学报(人文社会科学版)』, vol.174, 2002.6, pp.92-96。
 - 21 Stanford Log-linear Part-Of-Speech Tagger はスタンフォード大学が開発したものであり, 文章中の語彙を抽出し, 品詞も表記されるソフトウェアである。

An Empirical Study on the Topic Selection and Content Design of Chinese Textbooks:

New Practical Chinese Reader and Integrated Chinese as Example

Li LIU

(Graduate Student, Graduate School of Education, Tohoku University)

In foreign language teaching, the primary stage also the initial stage of learning is that students need to master not only syntactic structures of language, but also the ability of communication skill.

As a result, the primary stage of foreign language teaching is usually in a dilemma, which is how to balance syntactic structures of language teaching and communication skill training. This problem is also cannot be avoided in the process of compiling textbook. The selection of the topic and the way of extended topic is the most important part of the preparation of compiling textbook. But in the relevant research of compiling textbook about the primary stage of Chinese textbooks is rarely mentioned.

This paper chooses two widely used Chinese textbooks which are the *New Practical Chinese Reader* and *Integrated Chinese* as study objects. This research uses *International curriculum for Chinese language education (2014 edition)* as a standard of topic classification. In this research, the topics selected in the *New Practical Chinese Reader* and *Integrated Chinese* have been compared and analyzed. Based on the result of analysis, the factors that influence topic selection and the way of extended topic in the Primary stage's Chinese textbook have been clarified. Meanwhile, they are seeking for the balance between language syntactic structures teaching and communication skill training in the primary stage of teaching Chinese as a Second Language.

Key words : textbook, the Selection of Topics, *New Practical Chinese Reader*, *Integrated Chinese*